

生保内ブナ天然林施業指標林の 更新状況について (123)

田沢湖営林署・森林事務所 ○石川キヨ子
渡辺 登

はじめに

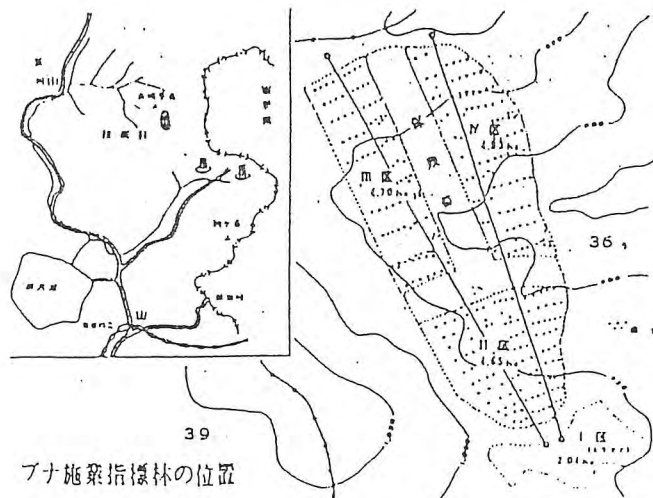
この指標林は、ブナ皆伐天然下種更新対象とする「新しい森林施業」の定着化を図るため、林野庁、林業試験場の指導のもとに秋田営林局が、昭和50年8月に設定し、昭和52年7月から、昭和58年10月（施業後7年経過時）までの、各年におけるブナ稚樹の平均成立本数を、発生年度別に調査されている箇所であり、今回調査した結果について考察をくわえ発表します。

1、施業地の概要、

(1) 施業地の位置

秋田県田沢湖町小和瀬沢国有林36林班れ～れ'小班
玉川源流部、鳥帽子岳すそに位置しています。

図-1 位置



(2) 地況

表-1 各作業区の地況

作業区	面積 ha	標高 m	方向	傾斜	堆積様式	母材	土壌型
I	2.04	950~1,000	N	15°	残積土	第四紀安山岩	Pw(h)-III
II	4.65	900~1,000	N	7°	//	//	//
III	4.70	900~950	E-SE	10°	//	//	//
N	4.93	900~1,000	SE	12°	//	//	//

(3) 林況と伐採計画

表-2 林況と伐採計画

伐区	面積	樹種	材積	ha 当り		母樹ha当り		伐採率	植生量 (総樹高法)
				本数	材積	本数	材積		
1	2.04	ブナ 他	416m' 79	111本 52	204m' 39	26本	33m'	78.2%	5.5 m ~74.8 m
2	4.65	ブナ 他	795 75	125 26	171 16	27	44		
3	4.70	ブナ 他	794 76	123 27	169 16	23	41		
4	4.93	ブナ 他	833 84	124 26	169 17	24	45		
計	16.32	広	3152	152	192	25	42		

2、指標林のねらいと作業仕組について

- (1) この指標林は、公益機能をより重視した森林経営を行なう方向が、示された新しい森林施業の大きな課題であり、亜高山帯、ブナ林の解明されない分野を解く施業でもあります。

また、設定作業仕組は、4区を設定し、1区は点状、2～4区は列状母樹保残としての作業区に設定されています。

なお、更新種は1～4区共に天然下種1類の予定地であり、林分は全区共、チシマザサの密生地で、伐採前の全面刈払い（機械全刈）をし、ha当たり16人でササ処理をしています。

3、調査結果について

- (1) 今回は、以後9年経過した平成4年11月に技術開発事業計画の継続事項の、一業務として調査したものであるが、残念なことに前回までの、調査プロットの位置が確定できないため、前回調査とは対比できませんでした。

- (2) 今回の調査は、前回のプロット箇所が判明できないことから、陽光等の当たる林道、歩道を中心とした、林地内に1m、4m、10mと進入

した調査方法を取ったものであります。

調査結果は、「表-3」のとおりです。

表-3 各作業区のブナのHA当り成立本数

単位 : 百

成立数 巨離	1 区		2 区		3 区		4 区		備 考
	cm 30 以上	cm 30 未満	cm 30 以上	cm 30 未満	cm 30 以上	cm 30 未満	cm 30 以上	cm 30 未満	
1	40.0	10.0	60.0	0	3.3	6.6	10.0	10.0	
4	20.0	20.0	6.6	13.3	10.0	0	10.0	0	
10	20.0	10.0	5.0	2.5	0	0	0	0	
ササ 密生地	0 (690.0本)	0	0 (690.0本)	0	0 (760.0本)	0	0 (750.0本)	0	ササの高さ 220~250cm

* () はHA当りササ本数

(3) 以上、表-3から見るにブナの稚樹発生は、1区、2区を除き昭和58

度調査表から見るに、新たに発生したものと思われるものが見当たらず、

保育施業を取り入れないかぎり、森としては、かなりの年数がかかるもの

と思われます。

4、まとめ

- (1) 平成4年度は、この指標林内のブナは、豊作年であったが表-3で説明した、とおり現在の林地の状態では、新たな稚樹の発生は期待出来ないものと判断されます。
- (2) 点状、列状の作業区を、対象して見るにどちらが良くて、どちらが悪いとは言われない、点状でも、母樹の下にササがないかを見れば、密生地箇所であれば、本/m²は60~70本は密生し、下層植生もない状態であります。
- (3) 林地内の写真撮影では、11時30分の時間帯であってもカメラは、全部フラッシュが使用されたことから、ササの密生により陽光は0と判断しました。
- (4) 以上、総合判断するには、ササの密生する箇所については、更新種にこだわることなく、陽光時間帯の長い林地にあった筋刈をすることが、ブナ稚樹の発生と、早い年月でブナの二次林が誕生するものと判断されます。